

第2学年3組 保健体育科学習指導案

日 時 令和7年9月19日(金)5限目
場 所 体育館
授業者 山田 啓義

1. 単元名(教材名):球技(ネット型) バレーボール

2. 単元のねらい

(1)生徒の課題とつきたい力

日常生活や授業において前向きに取り組むことができる集団である。本クラス(37名)の今年度の新体力テスト総合評価の内訳は、A:2名、B:10名、C:10名、D:9名、E:3名(未実施の種目がある生徒を除く)である。運動能力が低い生徒が活動にどうやって参加していくかが課題である。取り組む姿勢は悪くはないものの、上達の方法を理解しておらず、個々の活動にゆだねた際には、単に練習を反復する様子が多く見られた。粘り強さはみられるが、正しい形を理解したり、自分の技能で足りていない部分は何かを考えたりといった、知識・思考・技能がうまく結びついていない。保健体育の授業を通して論理的な思考を身につけ自身の能力を高めていく素地を作りたい。そのため、まずは自ら学習に向かう姿勢と、基礎・基本を身に付けさせることを授業では意識している。具体的には、生徒それぞれが自分の理解度やペースに合わせて、これだけは達成しようという個人の目標を設定し、個別または協働で学習を進められるようにしている。

(2)教材について

ネット型の特性としては、コート上でネットを挟んで相対し、体を操作してボールを空いている場所に返球し、一定の得点に早く到達することを競い合う運動である。特にバレーボールは、ボールを媒介として「個人対個人」ではなく、「集団対集団」での攻防を繰り返しながら点を取り合う運動である。一人が連続してボールに触れることができず、自己完結型の運動ではなく、他者との関わりの中で運動が成り立っている。そのため、個人だけではなく、集団としての上達がバレーボールの競技性の向上と楽しむことにつながる。バレーボールの本質的な楽しさを感じるためには、コミュニケーションが必須となり、他者との関りを育てるという点で、生徒の学びの場を設定しやすい。その一方で、ボールを落とさないという特性から身につけるべき技術も多いため、それぞれの学年に合った段階的な指導によって生徒の心身の発達を促すこととしている。

3. 単元の目標

(1)次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。

ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 [知識及び技能]

(2)攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 [思考力、判断力、表現力等]

(3)球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。 [学びに向かう力、人間性等]

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 集団対集団で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて言ったり、書き出したりしている。 ② 対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて言ったり、書き出したりしている。 ③ 相手側のコートの空いた場所にボールを返すことができる。 ④ 味方が操作しやすい位置にボールをつなぐことができる。 ⑤ 相手の打球に備えた準備姿勢をとることができる。	① 提示された動きのポイントやつまりきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えることができる。 ② 練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えることができる。 ③ 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けることができる。	① 作戦などについての話合いに参加しようとしている。 ② 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。 ③ 練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。

5. 指導と評価の計画

時	学習課題(学習目標)	主な学習活動	評価の観点		
			知	思	態
1	・オリエンテーション ・基本技能練習	・学習の流れ、授業のルール ・オーバーハンドパス、アンダーハンドパス ・アンダーハンドサービス、フローターサービス	○		
2	・レシーブについて	・サービスレシーブ ・スパイクレシーブ ・技能テストの理解	○		
3	・ミニゲーム	・ボールを落とさないために必要な技能の理解 ・自陣の空いたスペースを埋める動きの理解	○	○	
4～7 (本時5)	・課題解決学習 ・技能テスト	・個別の課題、チームの課題の練習 ・ICTの活用	○	○	○
8～9	・ゲーム	・様々な力量の中で、全員が楽しめるようにルールを工夫		○	○

6. 計画等の共有方法

保健体育のクラスルームにおいて、授業で毎回掲示することで、常に生徒の目に触れるようにしている。また、授業の始まりや終わりに、クラス全体で適宜確認する機会をもつようにしている。

7. 本時の指導(5/9時間)

(1)題材 球技(ネット型) バレーボール

(2)目標 課題を考え、ボールをつなぐために工夫することができる。

(3)ルーブリック

S…仲間と連携してボールをつなぎ、相手側のコートの空いた場所にボールを返すことができる。

A…仲間と連携してボールをつなぐことができる。

B…基本的な技能ができる。

(4)本時の展開(50分)

	学習活動	指導上の留意点○ 支援の手立て★
導入	<p>○準備運動、補強運動</p> <p>○基本技能の練習をグループで行う。</p> <p>○各自めあてを設定する。</p> <p>課題設定</p>	<p>○本時の学習を意識して、必要な準備体操と補強運動を行う。</p> <p>○今までの授業の振り返りを確認させる。</p> <p>○ルーブリックについて全体で簡単に説明する。 ★スプレッドシートを確認しながら、めあてを入力できていない生徒には声をかける。</p>
展開	<p>○個別または協働で学習を進める。</p> <p>情報収集</p> <p>整理・分析</p> <p>まとめ・表現</p>	<p>※以下の「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」については、生徒それぞれがやりやすいと思う手順で進めさせる。</p> <p>○仲間への助言や安全に留意する意義などの理解と具体的な取り組み方を結びつけて指導する。</p> <p>○動きの獲得を通して、知識の大切さをいっそう実感できるようにする。</p> <p>○ICT の活用により、即時にアドバイスをしたり、学習の振り返りの質を高めたりする。</p> <p>○わかったことや大事だと思ったことをまとめさせる。 ★内容の精選や時間配分について声かけを行う。</p>
終末	<p>○次時の内容を確認する。</p>	<p>○次時は続きとなるが、各自で進捗を把握するよう伝える。 ★全体で押さえるべきポイントがあれば確認する。</p>